

SONRISA

# そんりさ

Vol.122

グアテマラ視察報告



「そんりさ」はスペイン語で「微笑み」を意味します。私たちレコムは様々な活動を通じてラテンアメリカ・カリブの人々と喜びを分かち、共に生きていきたい、彼らの微笑みを私たちの微笑みにしたいと考えています。

- |    |             |             |
|----|-------------|-------------|
| 2  | グアテマラ視察報告   | : 武田由紀子他    |
| 16 | ボリビアだより その2 | : 藤田護       |
| 20 | 本紹介「革命の侍」   | : 寺本衛       |
| 21 | チリ通信 7      | : 邦三郎       |
| 23 | 音楽三味♪ペルーな日々 | : 水口良樹      |
| 25 | メキシコ食巡り     | : ミゲル・アクーニャ |
| 26 | ニュースクリップ    |             |

## ボリビア使の(その2)

藤田 護 (ボリビア外務省外交アカデミー客員研究員)

二〇〇九年二月一〇日

### 3. リオ・アバホとボリビアのトドス・サントス

ラパス市内のサンベドロとロドリゲスの間の辺りに、ミニブス (minibus) (日本で言うマイクロバスをバスとして使っているもの) とトルファイ (Tufi) (いわゆる乗合タクシー、ミニブスよりほんの少しだけ高い) の乗り場 (parada) がある。乗客が埋まるたびに出発するのだが、日曜日は客が多くて一台着くたびに人に殺到する。ラパス市内を南に向かって高速を下りていくと、高級住宅街であるゾナ・スール (Zona Sur) に向かって左に大きく曲がるカーブがある。そこを逆に右に曲がると、月の谷と呼ばれる観光スポットに向かって岩山を再び少し上ってから、また下り始めて動物園やパーベキョー場やカートや乗馬のできるマヤッサ (Malasa) という所に着く。ここは市内よりもだいぶ暖かく、ラパスの人々が週末に遊びに来るところ。そこも通り過ぎると、ラパス市内から一緒に下りて来た川をわたる大きめの橋があつて、その先はリオ・アバホ (Rio

Abajo) と呼ばれる地域に入る。

リオ・アバホは高度が三〇〇〇メートルを切るので、空気がむっとするほど濃くなって、暖かさがラパス市内と全然違う(注: 僕が普段いるエル・アルトは高度が四〇〇〇メートルを越えて



写真1

います)。ワフチーリヤ (Huachilla) バレンシア (Valencia) と比較的小さめの町が続ぎ、川の左側はメカパカ (Mecapaca) という町で終点になる(写真1)。ラパス市内からは一時間と少しで着く。ラパス市内で僕が仲良くしている家族のおばあちゃんがバレンシアに住んでいるので、ほぼ毎週日曜日にここに通って、アイマラ語のお話を学ばせてもらったりもしている(注: これは僕の現在の調査の一つの小さな柱になっていて、多分どこかで発表する機会があると思います)。ここは果物の生産が盛んで、一〇月終りになると果樹の葉は青々と茂り、花の季節はもう終ってプラムや梨やイチジクやルフマと呼ばれる果実が青く育ち始めているのが見える。一二月の後半から徐々に収穫の季節に入る。ラズベリーは既に赤くなつていて、つまみ食いができる。かつてはアシエンダが労働者たちに分配されたという経緯があったようだが、最近ではこの辺りもラパスの高所得層の別荘地としての

1 ちなみに、ラパス市内にはミニブスと共に、スクールバスを中心とした大型バスで運行される路線があり、それはマイクロ (micro) と呼ばれる。名前だけだとミニブスとマイクロのどちらが大きいかわからない。タクシーなんかに乗るとお金がかかってしょうがないと思う人は、ミニブスとマイクロとトルファイを愛用することになる。慣れればと以外に路線の構図が分かってくるもの。

開発が進み、広い敷地を仕切って大きい住宅の建設が進んでいるのが毎年増えているようだ。

日差しの質が違って、パレンシアは土壁が濃密な太陽にあてられて焼けているような感じのするひなびた町だ。メカパカは今年一二月の総選挙の大統領候補にもなっていて、セメント会社の社長でもある大企業家サムエル・ドリャ・メディナの大邸宅があることで有名であり(写真2)、街の中心部は壁が全て濃い目のオレンジ色で統一されて塗られているのだが(写真3)、これは彼が資金を提供しているらしい。

一月一日は(メキシコなど同様に)ボリビアでもトドス・サントス(「万聖節」、あるいは「諸聖人の日」と呼ばれる日本のお盆のような行事がある。この日一日死者の魂が戻ってきて、



写真2

翌二日に戻っていくのだ。うちのおじいちゃんは一〇四年に亡くなっていて、そのために子供え物をするメサ(mesa)というもの

を設える。おじいちゃんが生きていた頃はパレンシアのうちでメサを設えていたらしいが、亡くなった後はその先のメカパカのおじいちゃんの弟が持っている家で共同にメサを出している。

うちのメサはこのような感じである(写真4)。上から見ていくと、サトウキビと花でアーチが作られ、その奥には一番上にビクトル・パス・エス・テンスロ元大統領の写真が(おじいちゃんが大方アンだったそう)、その下には右側におじいちゃんの名前が、真中には若くして死んだおじいちゃんの兄弟の一人の写真が、残りの二つは彼らの



写真3

さらに父親と母親の名前になっている。目を引くのは、果物とともに人をかたどったパン(タンタ・ワワ(tanta wawa)と呼ばれる。この音は glotalization と呼ばれる破裂させる音)と馬をかたどったパンがその下に大量に積まれていることだ。両方ともお面がついていて、このお面(カリタス(caras)と呼ばれる)はトドス・サントス前になると市内の露店の至るところで見える。トドス・サントス前の一週間は市内のパンを焼くことのできるオープン(オル(hono))のある場所は大忙しだ。これは戻ってくるはずの死者をかたどったものであり(戻ってくるのは老人だから少しぶざけてタンタ・アチヤ(anta achichia)だと言っているのを聞いたこともある)馬は死者が一年分のパンと果物を積んで戻っていくためにあるということだ。この馬はリヤマだったりすることもあるらしい(うちにはなかった)。少し段になるように積まれているのは、段を上るように

2 よく考えてみると、前に仕事をしていたとき、僕は決まってこの時機に休暇をとっていたので、実はトドス・サントスを見るのは初めてなのだった。面白いことにこの日系人の人たちは、8月ではなくてこのトドス・サントスを目安にしているようだ。1日に僕が泊まっている家の家族を中心とした人たちで大がかりな夕食会があった。





写真4

して天に戻っていくかららしい。少し分かりにくい左側三分の二ほどはおじいちゃんの弟夫婦が用意したもので、右側三分の一くらいがおばあちゃんが用意したものだ。正面には、酒をよく飲む人だった場合は酒と、故人が好きだった食べ物や備えられて、また列席する人たちにもふるまわれる花の中で目を引くのは、とつ（tupú）（aguano）の立ったタマネギが必ず供えられることで、これは僕が聞いた話では故人が飲む水を含んでいるということらしい。

お祈りをしに来る人がいる。僕は子供たちと途中からサッカーをしていたので全貌は見えないのだが、家族の人たちはその人に例えば「Chachaxaki: 私の（死んだ）夫のために（祈ってほしい）」と依頼する。そうするとその人はお祈りをした後「(Almas) oracion katuspan 魂ま

でが祈りを受けとりますよつに」と言つて、家族の人たちも同じ言葉を返している。（注：細かいことですが katuspan は動詞 katusa の三人称の命令形なので、主語を明示しなくても「あなた」ではないのでどうも死者の魂のことらしいというのが聞いていて分かります。）それを死んだ家族の分、そしてメサを出している両方のそれぞれに対して繰り返すと、それぞれからパンや果物が分け与えられる。僕が目撃したのは、近所の人のように、あまり豊かでない人がこうしてお祈りをして回つてパンと果物をもたらしているの話だった。月曜日には僕も含めてラパスに住んでいる家族は行かなかつただけで、メカパカの墓地にメサを移動して食べ物や振る舞つたらしい。月日に魂が天に戻っていくということのだが、農村の方では火曜日まで続いて、火曜日に魂が戻っていくらしい。エル・アルトで僕が今いさせてもらっているラディオ・サン・ガブリエル（Radio San Gabriel）でも火曜日はまだ仕事に来ない人がいて「村に戻っているからね」と周りの人たちがしゃべっていた。

#### 4・ペルの映画

（全体の筋があまり分らないように書きますがそれでも気になる場合は観た後で読んだ方がいいかもしれません。）

近年ラパス市内には新しい映画館ができていてその一つがシネマテカ・ポリビアーナ（Cinematca Boliviana）が設立した上映室が三つある映画館だ。一〇月、ここにペルの映画で今年のペルリン映画祭で金熊賞を受賞した「Ela susurra」と呼ばれる映画が来ていたので見に行ってきた。すくしい映画だと思ったので（二回行ってしまいました）観ながら考えていたことを少しだけ、魂つながりで。

この題名は訳すのが結構難しい。インターネットで検索をしてみたら『悲しみの乳』というのを見たけれど、むしろアススータル（susurra）の元になつているススト（susio）というのは恐怖で魂がどこかに行つてしまうことだ。ここでは子供がこういう状態になると、親などの周りの大人たちは Juan, Juan（戻つて来い、戻つて来い）と呼び続ける。エル・アルトに住む友達の映像作家のカップルは、最近その抜け出た魂が世の中の色々な物を見て、また自分自身の肉体に帰ってくることをフアンタジーっぽい短編アニメ作品にしてコンクールに応募していた。この映画の場合は魂が地底に隠れてしまつたらしい。

冒頭に、ひたすらケチュア語の歌が続くのだがその歌詞はいきなり衝撃的だと思う。犯されるだけでなく、殺された自分の男のペニスを切り取って食べさせられるという経験が、ケチュア語のきれいな旋律に乗せて歌われる。この歌は監督が歌

詞を考えて、主演の女の子が節をつけたいらしい。暴力の苦しみをケチユア語の詩の形式に載せて、口承で母が娘に伝えるなんて、すごく subversive なのではないかと思う。

この映画は、こういう伝統への関心とそれを引っくり返そうとする反乱という二面性に満ち溢れている。そしてこの歌は人々の証言を丁寧に読んだ上で虚構として作られているからこそ可能になっているのであって、そして創作から現実へと返す刀で切り込んでいくのだ。武装ゲリラと政府軍双方の板挟みになって極度の緊張状態におかれると、村の内部での記憶の構築がうまく行かなくなる（記憶が断片化してしまう）というのが人類学という口承文学というかで指摘されているこの時代に関する重要な知見のように思うのですが、この映画は創作に携わる側からのそれに対する大事な応答になっているように思う。

このような苦しみに満ちた、しかし静かな詩的言語の世界は、多分、かなり強い男性不信を底音として物語が紡がれていることと関係するように思う。

ただし、叔父にレイプされるかと思って主人公が逃げ出す場面で、叔父は主人公がちゃんと息をしているか、つまり生きようとしてほしいという思いを実は吐露していることは重要な（この場面の重要性はすでに指摘されている）。そこから先に進むならば、この映画は、とても緊密に全て

の要素がつながる中で、でもさまざまな瞬間が二面性を持っているために、広がっていく。死には結婚を、母親の死体にはウエディングドレスを重ね合わされる。そしてこの二面性がお互いに微妙にずれているところに大きなポイントがあるはずだ。誕生ではなく結婚、レイプされる恐怖には生きようとする希望が重ね合わされる。この瞬間における微妙なずれを含んだ転換に、僕はこの映画がおそらく成功しているのだと思う。だから、最後の静かな忍耐強い希望へとギリギリのところまで持っていくことができるのだ。

多分次回には政治の話になると思います。

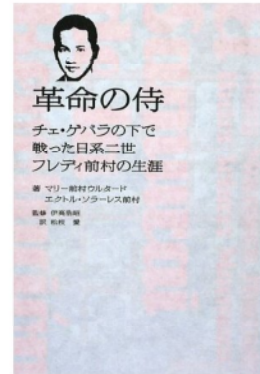
（おわり）

著者注：この映画の日本語で書かれた紹介としては、例えば、飯島みどり「<暴力の時代>の記憶は共有できるか ペルーからの報告」『世界』2009年8月号、pp.237-245、が存在する。

3 前にこの監督は MADEINUSA (マデイヌーサ) という、外部から隔離された村に住む題名と同じ名前の女の子を主人公とする映画を撮っているのだけれど、そこでもその子は自分を村から連れ出してくれるはずの色の白い首都出身の男の子を売り渡して（自分が犯した殺人の罪をなすりつけて）自分一人が代わりに脱出するという、ちょっと驚く仕掛けが最後にある。女性の世界を基調にして、すごく深いところで時間をかけてたった一人の男性とつながり続けるようにすることで、La teta asustada のこの物語が可能になっている気がする。そしてこの主人公の女の子が、きれいにならないように純粋にならないように、そこにもまた仕掛けが凝らされている。

4 手元に十分な量の資料がないのですが、例えば、Rowe, William. 2001. "Memoria, continuidad, multitemporalidad." Cuadernos de literatura 37, Carrera de literature, Universidad Mayor de San Andrés, La Paz. は Billie Jean Isbell による口頭発表を参照しながらこの筋の議論を展開しています。

## 本紹介



本書は、日系ボリビア人フレディ前村の物語である。フレディ前村は、チェ・ゲバラがボリビアで率いたゲリラ部隊の、唯一の日系人隊員だった。そして隊長のチェとおなじく医学の心得をもった医学徒であり、不屈の正義感をもつ革命家であった。

うえに物語と書いたが、本書に描かれたすべての人物は実在の人物であり、史実についてもすべからずかきとされた情報に基づいている点からすれば、ある面で本書はドキュメンタリーといえよう。

そしてもつとも物語的なくだりが、フレディ前村自身の内面描写である。共同著者である実姉マリー前村ウルタードと夫エクトル、フレディの甥にあたる息子エクトルが、残されたフレディの日記や

肉親の立場から創作したのは否定できない。しかし、さまざまな逸話と歴史的事実が示すフレディの感受性を大きくはずしているとは思えない。

いっぽう本書は、ボリビアにおけるゲバラの全ゲリラ部隊のうち、もつとも過酷な運命をたどった後衛隊を描いた初の日本語資料となつていて、後衛隊は、チェの本隊より分離しあえて戦闘地域にとどまり、物資が窮乏する劣悪な状況のもと最期のときを迎えた。そのような極限状況で敵前逃亡するボリビア人ゲリラがあいつぐなか、罨にかかり酷い拷問のすえに惨殺されたフレディの尊厳はきわだつている。

さらに尊厳といえば、フレディの死後からつい最近までの数十年間、著者をはじめとする遺族のかたがたがこうむつた筆舌に尽くしがたい迫害・弾圧を思わないうではいられない。それだけ抑圧する側がゲバラの部隊のもつ理念の潜在的破壊力をおそれていたということだ。ながきにわたる卑劣な行為をはねのけ、遺族の理想を本書というかたちにしたその不屈の精神に敬意を表したい。

また、本書がとてども丁寧なつくりになつている点も強調しておきたい。付録には「日本語版刊行によせて」、ゲバラ部隊の編成と構成員リスト、ボリビアやゲリラ戦展開地域図などの図版、略年表などがつく。監修者の伊高浩昭氏による「フレディと遺族の二つの戦線」は示唆に富

む。ボリビアでのゲリラ敗北の分析やボリビア軍の内部事情が整理され読者の便宜がはかられている。近年のラテンアメリカにおける左翼系政権のあいつぐ誕生に、フレディらがたたかつた闘争の現代的意味を読みとる観点は斬新である。

実際に本書をひもといて、フレディの生涯を追体験して欲しい。翻訳も非常にこなれて読みやすく、若い読者も数十年前の「闘争の季節」の熱を感じとることができると思う。理想のために死ぬことが最高と断言するつもりはないが、理想や夢にむかつて心を熱くして生きることの意義を、フレディの一生はわたしたちに問いかけている。

寺本衛（ラテンアメリカ交流グループ運営スタッフ；編集者）

革命の侍 チェ・ゲバラの下で戦った日系二世フレディ前村の生涯

【著】マリー 前村ウルタード  
エクトル ソラーレス前村

【監修】伊高 浩昭  
【翻訳】松枝 愛

長崎出版 二、一〇〇円  
二〇〇九年八月発行

また本書を訳者の松枝さんより「レコム梅村図書館」に寄贈して頂きました。この場を借りましてお礼申し上げます。



チリ通信 7  
「政権維持か保守回帰、はたまた左派無所属か」

注目のチリ大統領選挙 邦 三郎

ピノチェト軍事政権が退いた一九九〇年代の民主化以降、今のバチエーレ大統領までおよそ二〇年間にわたって続いたチリの「左翼政権」が、この一二月に行なわれる大統領選挙では政権を維持できるか微妙な情勢となっている。

現在のバチエーレと党連合（コンセルタシオン）政権は、バチエーレの社会党（PS）、キリスト教民主党（DC）、民主党（PPD）で成り立っている。左翼というよりは中道穏健左派と言った方が正確だろう。

一年前に行なわれた大統領選挙の前哨戦と言われる地方選挙（市・区長選挙及び市・区議会議員選挙）では、与党連合側は対立する保守野党の国民革新党（RN）に大敗した。一二月一三日に行われ

る大統領選挙は、今年前半までは与党側がキリスト教民主党のエドアルド・フレイ候補（元大統領）、対する野党側の元国民革新党党首のセバスチャン・ピニエラ候補との一騎打ちとの見方が強かった。

しかしその後、社会党内部で新味のない現政権後継候補のフレイ元大統領に反発して社会党を離党したマルコ・エンリケ・オミナミ候補（左派無所属）が、革新連合政権を真に受け継ぐのは私」と名乗りを上げ、さらには共産党候補も立候補。一〇月末現在、この四人の候補が激しい選挙戦を展開している。

去年の選挙結果を受けたかのように、ことし前半の世論調査では、ピニエラ候補が有利と言われている。近年いわゆる「左翼政権」が続々と誕生した中南米諸国の中にあつてチリでは久しぶりに保守政治に回帰しそうな気配が濃厚だった。

ところが一〇月はじめに発表された世論調査で、当初はマスコミが「泡沫候補」扱いしていたマルコ・エンリケがフレイの人氣に迫る勢いを見せて俄然白熱した大統領選となってきた。一回目の投票でどの候補も過半数を占めるのは難しいと見られていて、仮に一二月の選挙でエンリケがフレイを破って決戦投票になった場合、ピニエラと互角の勝負になるのではないかという見方さえ出てきている。

チリの選挙制度は、これまでの成人年齢（一八歳）に達した場合、選挙権登録は本人の任意で行なわれ、登録した場合の選挙（投票

票）は義務から、年齢が達すれば選挙権自動取得となり、投票するかしないかは本人の自由意志となり、日本と同じような選挙制度となった。

これまでの選挙戦では、フレイには現職バチエーレ大統領が支持という強い味方があるものの、元大統領時代にさしたる成果も上げず、古臭く新味に欠ける「イメージが常につきまわっている。

一方、世界でも四、五〇番目という個人資産を有する大富豪ピニエラは「チリの可能性を引き出すのは私」と自信満々で、その豊富な資金力にものを言わせ、主要国道や各都市でもその顔写真やポスターは一番多く目に付く。弱点は貧富の格差が大きいチリでその金持ちぶりに反発する国民も少なくないことだ。

マルコ・エンリケ・オミナミはその名前が示すように義理の親が日系で、四〇代という若さが新鮮味となつているほか、労働者階級の間でここに来てじりじりと支持層を広げているが、逆にその若さが経験不足という見方もある。

主要3候補陣営の掲げる政策で最も大きな違いは、チリ経済を支える銅の扱いをめぐるもので、国営銅公社（コデルコ）の改革と税制改革にある。

もうひとつ、チリが抱える問題は先住民対策だろう。中南米諸国の貧富の格差は、つまるところ元々はアメリカ大陸の主人公であった彼らの存在を無視し続けてきたところにある原因、遠因があるからだ。当初は開いていた各候補の支持率もここに







退任となるが最近の世論調査では、バチエール大統領の支持率は七割以上に上り、その人氣はいまだに衰えていない。

きさくで庶民的といったイメージや大きな経済政策の失敗がなかったこと、そして貧困格差是正を重点とした政策が一定程度受け入れられていることが理由に挙げられよう。連続出馬が許されたとしたら再選は間違いなことだろう。

ラテンアメリカ一九九〇年の大統領（キューバのみ国家評議会議長）選挙は、エクアドル（二月）、エルサルバドル（三月）、パナマ（五月）で選挙が行なわれた。エクアドルは左派系のコレアが再選され、エルサルバドルでも旧左翼ゲリラ政党、FMLN（フアラブンド・マルティ民族解放戦線）のマウリシオ・フネスが一九九二年の内戦終結以来、初めて勝利した。

また今年に入ってボリビア、ベネズエラな

きて縮まってきている。

一〇月下旬現在、互角の戦いを繰り広げているフレイ、ピニエールだが、私自身の思い入れも含めてダークホースのエンリケの逆転とひそかに見ている。一カ月半後、中南米で最も安定していると言われているチリの今後四年間の舵取りをするのは果たして誰か、注目に値する選挙だ。

チリでは現職大統領の連続出馬は認めていないためバチエール大統領は今期で

ど左派系諸国を中心に大統領連続再選の合法化が進んでおり、一〇月下旬には、ニカラグアでも最高裁憲法廷が、連続再選禁止条項を無効とし、連続再選を認める決定を出したが、野党指導者は一斉に「陰謀」と反発しており、正式決定までは予断を許さない情勢。

ホンジュラスのクーデター（六月）は、軍部によって一方的に解任されたセラヤ大統領が、再選を目指して憲法改正をまくろんだことがきっかけだった。

軍部が後押しするホンジュラスのミチエリッテイ暫定大統領は、たとえその結果が国際社会に認められなくても一月二十九日に予定されている大統領選挙を実行するとしているが、九月末に帰国を強行したセラヤ大統領支持派の労働組合などとの緊張関係は依然続いたままだ。

私のチリ通信も今回が最後になる。既に「そんりさ」でも関連記事が掲載されているが、四〇余年前、チエ・ゲバラとともに祖国ボリビア解放のために戦って政府軍に殺された若き日系ボリビア人、フレディ前村の足跡をたどるキューバ、ボリビアへの旅をこの八月にしてきた。

弟フレディの生き様を広く世に伝えようと、息子とともに本にしたボリビア・ラパスに健在のフレディの姉マリー一家と会うことや革命五〇周年を迎えたキューバの現状を見るのが目的だった。

幼少のころから貧しい人々を思いやる稀有な存在だったフレディ。そして人生に真剣に立ち向かって若くして死んだフレディの魂に出遭い、また温かい前村家ファミリアとの交流は、短時間だったにもかかわらず今もなお心に強く残る。

さらに今もなおその輝きを失わないゲバラに対するキューバの人々の思いを少しではあるが実感してきた。一方でカストロ兄弟ら軍・共産党指導部と一般キューバ国民のあまりにかけ離れた乖離には複雑な思いが残ったが。

さまざまな困難な状況の中で無残にもボリビアの山中で散ったかれら革命戦士たち。その理想社会を求めた革命思想はその死後およそ四〇年を経過した今、ラテンアメリカ各国では、アメリカ合衆国に對等に向き合い、先住民の正当な権利を守り、その文化を尊重する機運が高まりつつあることで花を開きつつあるように思う。フレディの遺族らは「革命の侍」（長崎出版、一三〇〇円）について「日本の若い人たちにぜひ読んでほしい」と話している。

ラテンアメリカでは多くの国で「一〇月一日」は「スペインの日」あるいは「血統の日」として祝日になっている。クリストバル・コロンが一四九二年一〇月二日にアメリカ大陸を発見した日だからだ。

しかし、大陸発見「五〇〇祭」を前にしたあたりから、こうした歴史の捉え方を見直す動きが活発になってきた。先住民出身者として初めて大統領になったボリビアのエボ・モラレスはこし先住民が多く住む村で演説し、「スペインの征服によってわれわれの先祖には飢餓と病気がもたらされた。この日をその歴史を見直す機会にしよう」と述べた。チリでも一〇月一二日、サンチアゴ市内で先住民、マプーチエ族が七〇〇〇人あまり集まって抗議のデモが行なわれた。

わずか一年九ヶ月の初めての南米滞在で少しだけ知ったラテンアメリカ事情。帰国後も折りに触れて関心と注意を払っていききたいと思っている。（了）



## 「さよなら、メルセデス・ソーサ&amp;サンボ・カベロ」

二〇〇九年十月は、ラテンアメリカの音楽において、偉大な二人の歌手を失った悲しみの月となった。その一人は、ラテンアメリカ音楽の母とまで呼ばれたアルゼンチンの偉大な歌手、メルセデス・ソーサであり、もう一人は、ペルーの黒人音楽のもっともすばらしい歌手の一人、アルトゥーロ・「サンボ」・カベロだ。

今回は少し予定を変更して、この二人の偉大な歌い手を偲びたいと思う。

十月四日早朝、アルゼンチンで一人の偉大な歌手の人生に幕が降りた。アメリカ大陸の声と称され、ラテンアメリカに大きな影響を与え続けた歌手、メルセデス・ソーサが惜しまれつつも亡くなったのだ。

一九三五年、アルゼンチン北部のトゥクマーンに生まれた彼女は、その卓越した歌声でいつしかヌエバ・カンシオンを代表する歌手として国内外で絶大な人気を得ていった。芯のある力強い声。意志の力を感じる歌。詩に込められた未来への祈りとも取れる熱い想い。僕は、彼女の若い時代の歌声を子供の頃聴い

て育った。そして何故か、おそらくその力強さ故、僕はずっと彼女のことを男性だと信じていた。それほど、力強い説得力に満ちた声だった。しかし、同時にその歌声には、温かさやぬくもりがしっかりと裏打ちされていて、まさに大地の歌声と呼ぶにふさわしい、そんな声だったとも言える。

そんなふうについてしか僕自身、彼女の歌に引き込まれ、そして歌の歌詞にも胸打たれた。彼女の歌う曲はなぜこんなに胸に迫るのか、分からないながらも聴き続けた。中学生の頃には彼女の歌を耳で聴き取り、片仮名でノートに何度も書きつけたりした。学校では誰も知る人のいない、僕だけの歌手だと思っていた。

大学に入って、ラテンアメリカがずっと近くなって、いろんな情報と出会う中で、彼女が本当に偉大な歌手であったことを改めて知った。ライブCDを初めて聴き、観客の歓声の熱狂に度胆を抜かれたのもこの頃だった。思えば、これほど彼女の歌声にほれていながら、なぜ彼女が偉大な歌い手として評価を受けていると思ひ至らなかつたのか。それはきっと日本で彼女があまりに無名だった、ということにあるのだろう。

ラテンアメリカは歌の文化が非常に色濃く息づく地域だ。歌と踊りなしに人生は考えられない。添え物ではなく、まさに生きること

と同義語と言ってもいいほど、かけがえのないものとして傍らに存在する。そしてそれゆえ、多くのすばらしい歌手が数えきれないほど活動している。にもかかわらず、その代表的な歌手ですら日本では扱いは低い。ラテンアメリカを代表する多くの歌手のほとんどが日本では名前も曲も知られていない。日本のポピュラー音楽は、常にラテン音楽を同化・吸収しながら成長してきたが、あまりに自然に行なわれてきた故か、多くの人は、自分がラテン音楽の影響を受けているとは思えない。非常に歯がゆい想いもある。

ともかく、それでもメルセデス・ソーサはまだ日本でも多くのファンがあり、彼女の計報は多くのファンを悲しませた。私の父は、幸運なことに彼女の来日時にライブを見に行っていた。僕は結局叶わなかつた。南米にいた頃も、タイミングが合わず、結局一度も彼女の声を生で聴けなかつた。それでも、C

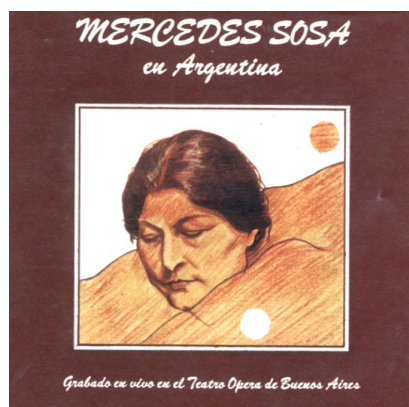


DやLP、カセットテープから流れてくる彼女の声を聴くたびに、胸を高鳴らせ、またうち震わせた。

南米の七〇年代、暗黒の軍政時代を超えて歌い続け、多くの人に勇気を与え、生きながら伝説となった彼女。彼女の人生は、どんなだったのか。僕は想像すらできない。

彼女は自ら作詩・作曲は行なわなかったが、歌う歌のほとんどは、メッセージやしつかりとした世界を持っている。彼女の歌は、心になにかを語りかけずにはいられない。その影響力の大きさから当局にいられた時にも、「私は政治色など全然ない愛の歌、抒情の歌も好きだし、たくさんレパートリーをもっています。私はただ、南アメリカに生きる民衆の一人として、私たちの感じることを素直に歌っていきただけです。人々に向かって仲良く手をつなごう、不正をなくそう、人間らしく互いに愛し合いながら生きていこうと歌いかけることがしも“政治的”なら、私は答えましょう。これからもたくさんの“政治的歌手”が生まれてきてほしいと・・・。」と言って歌いつづけた。

そして、ソーサの死から数日後、十月九日お昼頃、ペルーの黒人音楽を支えた大歌手、アルトゥーロ・サンボ・カベールが六十九才で亡くなった。五日に病院に搬送



されて以来、ずっと悪かつたそうだ。日本ではほとんど知られていないが、ペ

ルーでは知らぬ人はいない海岸地方を代表する歌手であり、祖国ペルーを讃える「イ・セ・ジャマ・ペルー（その名はペルー）」や「コンティゴ・ペルー（ペルー、おまえといっしょに）」など数々の名曲を歌ってきた。

七〇年代にペルーのトップ・ギタリスト、オスカル・アビレスと組み、黒人音楽やバルスを歌ってトップに躍り出て以来、第一線で活躍し続けた歌手だった。彼の歌声は、伸びやかで、奔放で、熱い。時に軽やかに、また時には突き抜けるように歌う。魂の歌声、と形容したくなる、すばらしい歌手だった。サンボのカホンとちよび髭のオスカル・アビレスの絶妙なギターのコンビは、ペルー音楽史に残る数々の名演を残した。若い頃の映像を見ると、軽やかに踊ったりしているが、次第にピア樽のように太って動くのも大変そうになってしまった。二〇〇二年にサンボ・カベール

口の演奏を見た時にも、彼の太りようは、もはや人間というより二周りぐらい大きな別の生き物のようで大きな衝撃を受けた。その演奏を聴いた後、僕は女性と間違えられて、サンボにほっぺをちゅつとされた。今となっては懐かしい思い出だ。彼の訃報を聴いて、思っていた以上に動揺した自分に、如何に彼の歌声が好きだったのか、ということであらためて思い知らされた。

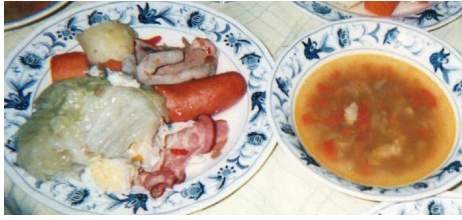
現地の報道によると、彼は黒人の信者が多いリマの聖人、セニョール・デ・ロス・ミラグロス（奇蹟の主イエス・キリスト）の熱心な信徒で、この日を讃える一〇月末のイベントで歌うのを心待ちにしていたとか・・・。

ラテンアメリカを代表する、二人の歌手が相次いで亡くなった。その偉大な足跡を偲びつつ、もう今後彼らの新しい歌声を聴くことは叶わない、という寂しさがつきまとって離れない。しかし僕も含めて、それでもこれからもずっと、彼らの歌声はラテンアメリカを生きる人々だけでなく、世界中の人々に聴かれ続けることだろう。これからも何度も何度も二人の歌声を聞き直し、向かい合い、助けられながらこれから生きていくだろうと思うのだ。今はもう遠くへ逝ってしまった二人の偉大な歌手を偲んで今日は筆をおきたい。

（水口良樹）

## ユカタン風 レンズ豆のポタージュ

POTAJE DE LENTEJAS A LA YUCATECA



### 材料 (4人分)

- ・栗色のレンズ豆 50 グラム
- ・トマト中1個 ・タマネギ小1/4
- ・ニンジン中2本 ・ジャガイモ大2個
- ・ソーセージ大4本
- ・ベーコン薄切り 80 グラム
- ・豚バラ肉 400 グラム
- ・赤か黄のピーマン中1個
- ・卵4個 ・キャベツ小1/4
- ・ニンニクペースト大さじ1杯
- ・バターかマーガリン ・フランスパン
- ・塩 ・サラダ油大さじ3杯 ・水

### 作り方

- 1) レンズ豆を洗ってザルで水を切る
- 2) ジャガイモとニンジンを洗って皮をむく
- 3) 卵4個をゆでて殻をむく
- 4) ピーマンを洗って種を取り除き、1センチ角に切る
- 5) トマトを洗って細かく刻む
- 6) タマネギを細かく刻む
- 7) 大きくて深い鍋に水2リットルとレンズ豆を入れて蓋をして25分間ほどゆでる。
- 8) 豚肉とソーセージ、ゆでた卵、丸ごとのジャガイモとニンジン、塩とベーコンを加えて、半分だけ蓋をして弱火にかける。
- 9) フライパンに油をしいてあたため、角切りにしたピーマンと刻んだタマネギとトマトを炒め、塩で味をととのえる。  
これらを先ほどの鍋に入れて、最後にキャベツを加え、弱火でゆでつづける。  
水が足りなければ少しずつ加える。
- 10) ゆであがったジャガイモが煮くずれしないように鍋からあげる。キャベツとニンジン、ベーコン、卵も外にとりだし、最後にソーセージと肉もとります。
- 11) ジャガイモとニンジンと卵を半分に分ける
- 12) キャベツと肉を4等分する
- 13) これらの材料を浅い大皿にそれぞれ盛りつける。
- 14) レンズ豆のスープを別の深皿に盛りつける
- 15) 薄切りのフランスパンにマーガリンかバターを塗ってトーストする
- 16) 赤ワインといっしょにどうぞ

ミゲル・アクーニャ メキシコで中学・高校の英語教師をしたあと、1986年に来日。「FM COCOLO」でDJをつとめた。大阪・天満で「メリダスペイン語教室」(<http://www.merida-mex.com>) 主宰。メキシコ料理店を開くため、準備中。

ポタージュとは、豆と肉、野菜などを使ったスープやシチューのことであり、「ごちゃ混ぜ」という意味でもある。水や牛乳をベースにつかった液状の料理だが、単純なスープよりもはるかに手が加わっている。

レンズ豆には、栗色や緑、黄、黄緑、オレンジなどさまざまな色のものがある。栄養も豊富で、炭水化物やたんぱく質、ビタミンB1、B3、B6、葉酸、亜鉛、セレン、多量の鉄分を含んでいる。

レンズ豆の原産地は南アジアだが、地中海沿岸にじよよに広まり、現在は、世界の大半の温暖な地域でつくられている。インドやシリア、トルコが大産地で、スペイン人によって持ち込まれたメキシコでも大規模に栽培されている。

シリアでは、一万一〇〇〇年前から栽培さ

れていたことを示す遺跡があり、トルコのハリカルが発掘でも、紀元前六六〇〇年前前に栽培されていたことが確認された。古代エジプト人はだれもがレンズ豆を口にしており、その豊富なタンパク質はピラミッドを建造する奴隷の生産性をあげるために不可欠だった。

私の故郷のユカタンでも、レンズ豆のポタージュは当たり前のように食べられている。私の母は、私が大学生になるまで、この料理をつくってくれた。さまざまな材料を使うから、栄養が豊富だ。昼食はトウモロコシのトルティーヤ、夕食はフランスパンと一緒に食べた。スープが余ったらミキサーにかけて、翌朝に食パンと一緒に食べるととてもおいしい。

メキシコには、レンズ豆のスープを大晦日

の夜、新年を迎えるために食べる習慣をもつ地域もある。

レンズ豆は便秘予防に役立ち、赤血球の量も増やす。レンズ豆と水と塩コショウでつくったスープはダイエットにも役立つ。

次のようなメニューを一週間もつづければ、体重は2キロ以上減るだろう。

▽朝食 水1杯／無脂肪ヨーグルト1カップ  
／マーマレードをつけたトースト／トマト1個

▽昼食 脂身がない肉を蒸したもの(あるいは蒸した魚)／水／果物／オレングジュース1杯／水と塩コショウでつくったレンズ豆のスープ1皿

▽夕食 トースト／レンズ豆のスープ1皿／水／生野菜／蒸した魚



## ニュースクリップ 2009年10月

### 南米 軍拡競争？

コロンビアが米国との新しい軍事協定で、国内の7基地を米軍に使用させると発表したところ南米諸国での再軍備に関する物議が起きている。南米諸国連合が8月10日にエクアドルで開く会議でこの問題が取り扱われる。また、ベネズエラのチャベス大統領はロシアと再軍備の新しい協定を結んだと発表。

ストックホルムにある国際平和のための研究機関(SIPRI)によれば、2008年の軍事費は340億ドルにのぼり、ここ10年間で5割増加している。実際には装備の近代化などによる武器の買い替えで、以前の武器より値段が上昇していることがある。ベネズエラ、コロンビア、ブラジル、チリはこの5年間で最も防衛費が増加している。

ブラジルは南米諸国の中で軍事費が最も高く(世界第12位)、GDPの1.5%にあたる230億ドルとなっている。ルラ政権になって5割増加したが、それはアマゾン地域や国境地帯での監視、南米地域のリーダーとして強い防衛力を持つこと、新油田の発見により海上での軍備を増強するためなどである。チリは銅の売り上げの1割を軍に投資できる法律があり、南米諸国で最も近代化された武器を持っている。コロンビアはFARCなどの麻薬組織と闘うため、ベネズエラやボリビアそしてペルーは自衛システムを増強するためという理由で新たに武器を購入したり買い替えたりしている。

軍拡は南米諸国間で調整が必要な政治的テーマとなっている。2009年の3月には南米12カ国が南米防衛審議会を立ち上げた。その目的は共同での軍事行動や自然災害の被災者救援といった人道支援を強化するためでもある。国家間の紛争の可能性が低いのに軍拡が進んでいる以上、南米諸国の軍隊の対話と協働が求められる。(BBC-Mundo 10/08/2009 より)

### ボリビア チャカルタヤ氷河消失

「世界一標高の高いスキー場」として知られていたチャカルタヤ氷河(標高5,300m)が、専門家の予測より6年早く今年3月に消失した。アイマラ語で「氷の道」を意味するチャカルタヤ氷河は80年代から消失が始まった。チャカルタヤの氷河消失は温室効果ガスの蓄積と地球温暖化の結果であることが指摘されている。霊峰として有名なラ・パスの南東にある6,462mのイリマニ山のような他の氷河も今後30年以内に消失すると言われている。

アンデス山脈の熱帯性氷河はペルー(71%)、ボリビア(20%)、エクアドル(4%)、コロンビア(4%)に及ぶ。ペルーは3,044の氷河が1970年から1997年で22%減少、5,500mより低い標高にある氷河の場合はさらに深刻である。エクアドルでは、氷河は水の供給源として非常に重要であるが、コトパクス山やアンティサナ山の氷河面積は30%から50%消失している。コロンビアではこの50年間で15の氷河のうち8つが消失し、残りの7つの氷河も5年から10年の間に1年で約20m後退していることが明らかにされている。氷河の融解は周辺に暮らす人々にとって危機的である。短期的には氷河湖決壊や、氷塊が崩れて洪水や雪崩を引き起こし、長期的には家庭用水、農業用水、水力発電のための水の供給が大幅に減少し、さらに氷河消失による山岳の生態系の変化がその生息環境を破壊し、多くの種が絶滅の危険に瀕することになるからだ。(2009/10/10 noticiasaliadas.org より)

### メキシコ シウダー・ファレスの殺人件数、過去最高に

米国とメキシコの国境にあるシウダー・ファレスで、麻薬カルテルの抗争による殺人事件の件数が過去最高になった。今年10月半ばまでで、昨年よりも815件多い1,986件の殺人があり、同月だけで、195人が殺害されている。1500万人の人口のうち毎日7人が殺害されていることになる。麻薬カルテルは米国への密輸ルートをコントロールするだけでなく、麻薬市場の支配のためにも争っている。シウダー・ファレスでの殺人の増加はファレスとシナロアという二つの麻薬カルテル間での抗争が再び凶悪化した結果であると言われている。シウダー・ファレスは何十年もメキシコから米国へのコカインの流れの重要地点の一つであり、麻薬消費の増加も著しい。2006年カルデロン大統領は麻薬カルテルと闘うために州警察官と4万5千人の兵士をシウダー・ファレスやその他の地域に配備することを命じている。(2009/10/22 BBC-Mundo より)

ホンジュラス ——— セラヤ大統領が9月12日に帰国しブラジル大使館に保護されたまま。以来クーデター政府による人権侵害が悪化。軍や治安部隊があちこちに。セラヤ復帰の見込みは立たず。11月29日の大統領選挙実施が危ぶまれている。候補者の辞退もある。クーデター政府は棄権を呼びかける者は逮捕すると強硬姿勢。詳細は次号の「そんりさ」でお届けします。(2009/11/24 記)



# **\*\* Información \*\***

## **お知らせ**

### **◆Afro-Peru LIVE en SHIMOKITA・ペルー黒人音楽ライブ en 下北沢◆**

本格メキシコ料理のコースとペルー海岸地方のアフロ・クリオーヤ音楽をお楽しみください。

日時：12月5日(土)12:00 開場、12:30 ランチ開始、13:30 演奏開始

場所：メキシコ料理レストラン「テピート」(下北沢駅より徒歩5分弱。)

Tel：03-3460-1077 URL <http://www.tepito.jp/>

演奏：ペーニャ・ハラナ URL <http://www.muse.dti.ne.jp/~cyqirque/>

料金：3000円(メキシココース料理・1ドリンク込み)

予約：テピートまで

### **◆変革の主体 スピーキング・ツアー◆**

プロジェクト「戦時性暴力の被害者から変革の主体へ—正義を求める女性たちの闘い(グアテマラ)」が「やより賞 2009」を受賞しました。授賞式に招かれるプロジェクト関係者を囲んでの講演会を、12月6～12日にかけて各地(東京、横浜、京都、神戸、札幌)で開催します。詳細は同封のチラシをご覧ください。レコムのブログよりご確認ください。または、事務局までお問い合わせください。

レコムホームページ <http://www.jca.apc.org/recom/>

お知らせコーナーについてですが、そんりさは隔月発行となっており、〆切は奇数月の10日となっています。情報掲載ご希望の方はお早めをお願いします。リアルタイムでブログにて情報発信も行っていますので、こちらもご利用ください。

【ブログはレコムのHP <<http://www.jca.apc.org/recom/>> よりどうぞ】

## **レコム梅村図書館について**

貸出を開始しております。目録がお手元にない方は事務局までお知らせください。ホームページにも目録を掲載しています。

## **会費について**

会費期限は「そんりさ」をお届けする際の封筒宛名ラベルに印字しております。期限が来ましたら、事務局よりお知らせを同封しますので、お早めの更新をお願いいたします。

## **事務局短信**

そんりさの発送作業は主に京都にて行っています。関西の会員が集まってワイワイ楽しい会になっています。終了後には一緒にご飯を食べたり、飲んだり。ぜひぜひお近くの方はお気軽にご参加ください!

そのほか、レコムではご自宅近くのイベントなどで民芸品を売ってくださる方を募集しています。売上はグアテマラ基金に寄付されます。出店料・送料などの実費はレコムが負担します。

なお、事務局の移転に伴い、電話は常時留守番電話となりました。伝言を残しておいて頂ければ、こちらより折り返しご連絡いたしますので、よろしく願いいたします。

**\*\* \*\* \*\* \*\* \*\***

2000年の戦時女性法廷へのヨランダ・アギラルさん招聘が、今回の「やより賞」受賞につながったこと、関わった一人としてたいへん嬉しく思います。各地での講演会に、ぜひとも、ご参集ください。

それから、レコム・フォトコンテストですが、貴重な写真が集まっておりますが、まだまだ、エントリーは少数です。ラテンアメリカの写真をお持ちのみなさん、ぜひ、早めにご応募ください。 (古谷)

次回の『そんりさ』発送作業は 月 日(土)の予定です。  
参加いただける方は連絡ください。

大変な作業も、みんなでやれば楽しくあつという間です。

レコム・メーリングリストのご案内：会員・購読者は無料で参加できます。  
登録したい方は E-mail : recom@jca.apc.org までアドレスを連絡下さい。

ホームページのご案内 レコムのホームページがどんどんリニューアル！  
<http://www.jca.apc.org/recom/>

- |                        |                       |
|------------------------|-----------------------|
| Vol.121 ペルー先住民族の動向     | Vol.117 エクアドルの先住民族活動家 |
| Vol.120 コロンビア 慢性化した紛争  | Vol.116 メキシコ先住民農村は今   |
| Vol.119 ナルコメヒコ メキシコの麻薬 | Vol.115 コロンビア先住民族の共同体 |
| Vol.118 エクアドル資源開発と先住民族 | Vol.114 北海道先住民族サミット   |

レコムに入会（もしくは購読）すると、メーリングリストにも無料で参加できます。  
入会したら、自己紹介メールを添えて recom@jca.apc.org までご一報を。登録します。  
レコムの活動は会員のみなさんによって支えられています。

☆郵便振替口座：00110-7-567396 日本ラテンアメリカ協力ネットワーク

☆会員 年 8000 円（学生 5000 円）…会の運営、総会での投票、『そんりさ』、資料閲覧・貸出

☆賛助会員 年 10000 円（一口）…資料閲覧・貸し出し、『そんりさ』購読、総会への参加

☆『そんりさ』購読者 年 4000 円…『そんりさ』の購読、メーリングリスト参加可

### レコム連絡先

〒 616-0004

京都市西京区嵐山中尾下町 20-15 太田方

TEL&FAX 075-862-2556 (留守電)

お問い合わせは、E-MAIL・FAX・手紙もしくは  
留守番電話にメッセージをお願いします。

<レコム口座>

83 万 5750 円

<グアテマラ基金>

18 万 5309 円

(2009 年 11 月 19 日現在)